

2019 年度公開講座 北海道の地震と防災

ご挨拶

北海道は、豊かな大地の恵みがある一方で、これまでに多くの地震災害を経験している地域です。昨年9月には、北海道胆振東部地震が発生し、斜面崩壊で大きな人的被害が出ました。また、ブラックアウトは北海道全域で社会生活や経済活動に大きな影響を与えました。今回の地震の教訓を、今後発生が予測されている千島海溝の巨大地震や内陸地震への備えに生かすことが重要となっています。理学研究院附属地震火山研究観測センターでは、2011年度より、地震に関する基礎科学から実学までの多方面にわたる内容を含んだ公開講座を開催しております。

2019年度公開講座「北海道の地震と防災」では、2日間5講座にわたって、様々な角度から家庭防災・地域防災につながる講義を行います。地震に関する基礎知識、災害に関する情報の活用など、地震・津波対策に関する様々な内容を取り上げます。

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター長
高橋 浩晃

●概要

■第1講／地震防災情報の活用

気象庁札幌管区気象台気象防災部／地震情報官 高橋 博

地震が発生した時、気象庁からは緊急地震速報や震度速報などの情報が次々に発表されます。身を守るためにあらかじめ知っておくことが大切な、それぞれの地震情報の意味や身につけていただきたい防災の知識について解説します。

■第2講／地下構造から考える北海道の内陸地震

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター／教授 橋本武志

昨年の胆振東部地震はどのような場所で起こったのでしょうか。このことは、長い年月をかけて形作られた北海道という大地の成り立ちと深く関わっています。私たちが直接見ることができない地下の構造という視点から、内陸地震の発生について考えます。

■第3講／歴史が語る人と震災－先人はどう災害を乗り越えてきたのか？

名古屋大学減災連携研究センターエネルギー防災寄附研究部門／客員教授 武村雅之

地震がいつどこで起るか？これは皆さんの大きな関心事です。ところが昨年の胆振東部地震でも分るように、予測に期待はできません。一方、日本には過去の大きな震災を何度も乗り越えてきた歴史があります。この点に目を向け、来たるべき震災を軽減し、復興をスムーズに成し遂げる方策を考えてみませんか？

■第4講／北海道周辺に発生する地震

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター／教授 高橋浩晃

北海道周辺では過去に何度も大地震が発生し大きな被害を受けてきました。講義では、胆振東部地震などの内陸の地震の特徴や、近い将来に発生が危惧されている千島海溝の巨大地震などについて学ぶことで、自分が住んでいる地域での防災を考える糸口となることを目指します。

■第5講／家庭でできる地震防災対策－北海道胆振東部地震からの教訓－

北海道大学広域複合災害研究センター／特任教授 岡田成幸

地震対策は自助・共助・公助と言われています。家庭でできる対策はまさに「自助」です。しかし、今回の地震は自助を超越していました。自助だけではどうにもならないこともあるということが、鮮明化した地震です。実は、この地震が特別なわけではありません。もう一度、自助・共助・公助について考え直してみませんか。

修了証

村山 英宣 殿

あなたは、北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター主催の令和元年度公開講座「北海道の地震と防災」の所定の講義を修了されました。

本講座の受講成果を活かし、今後の地域防災活動におけるご活躍を期待いたします。

令和元年六月二十二日



北海道大学大学院理学研究院

附属地震火山研究観測センター

センター長 高橋 浩晃

